

ROOMPLAN

新しい住まいは、エコな暮らしがコンセプト。

住空間の快適さや機能性はそのままに、よりエコに暮らせる住まいのデザインを新開発。
11戸の住まいをA・B・Cの3つのエリアに分けて配置し、それぞれに異なる個性を持たせました。

3つのエリアそれぞれ
特徴が異なります。

- Aエリア (1~4号棟)
- Bエリア (5~8号棟)
- Cエリア (9~11号棟)



Aエリア

Bエリア

Cエリア



Aエリア街並イメージイラスト

A-area

電気のみによるエネルギー供給

【設計・施工・監修】
ナイス株式会社・株式会社飯田善彦建築工房・岡山建設株式会社

Aエリア設計・デザイン監修/建築家

飯田 善彦 Yoshihiko Iida



横浜国立大学工学部建築学科卒業。1986年に(株)飯田善彦建築工房設立。現在、同社代表取締役の傍ら、横浜国立大学大学院/建築都市スクール(Y-GSA)教授を務める。

【受賞歴】

日本建築学会作品賞(1998)/中部建築賞(2004)/BCS賞(2007)/よこすか景観賞、神奈川建築コンクール優秀賞、栃木マロニエ建築・景観賞(2009)など

1.内と外をつなぐ土間テラス

みんなの庭と室内空間の間に設置した、「土間テラス」は部屋の延長としても、庭の延長としても使うことができる緑側のような場所です。冬季には蓄熱体として働き、暖房負荷を抑えます。

2.風と光を呼び込む快適設計

1階の土間・リビングに大開口と日よけを設け、自然の風や光を季節に応じて適切に呼び込む設計がされています。各所に設けた開口部と、家の中央に風通しを考慮した階段を設けることにより、通風にも配慮した設計となっています。

3.シンプルで温もりのある構造

建物に用いられる部材は、予め工場で加工された材料であり、廃材を最小限としCO2の排出を抑えるとともに、精度が高く安全な建物を実現します。また構造体となる柱や筋交いを積極的に見せることで、室内の広がりや木の温もりを感じることができます。

「土間テラス」
採用!!



イメージイラスト

「土間テラス」を採用したAエリアの住まいは、1階リビング・土間の開口部が特徴。室内と外部との境界をあいまいにすることで、住空間に伸びやかな開放と広がりを生み出しています。

Aエリア

Bエリア

Cエリア

【全体計画】

■マスタープラン企画・監修

ナイス株式会社/岡山建設株式会社/小林克弘 首都大学東京 教授

飯田善彦 横浜国立大学大学院 建築都市スクールY-GSA教授/株式会社飯田善彦工房

■協力

宇野健一 アトリエU都市・地域空間計画室/杉浦 隼 S2 Design and Planning

※掲載の概念図やイメージイラストは図面を基に描き起こしたもので実際とは異なります。

植栽は特定の季節の状態を示すものではなく、竣工時にはイメージイラストに描かれているように成長していない部分があります。

また、外観形状の細部（アンテナや設備機器、雨樋等）及び敷地周辺の建物、電柱、標識等は表現上省略しています。

※掲載の間取り図は設計図を基に描き起こしたもので、実際とは異なります。施工等の関係で変更になる場合がございます。詳しくは設計図でご確認ください。

※外構の石・タイル等はおおよその施工範囲を示したものです。

ROOMPLAN

新しい住まいは、エコな暮らしがコンセプト。

住空間の快適さや機能性はそのままに、よりエコに暮らせる住まいのデザインを新開発。
11戸の住まいをA・B・Cの3つのエリアに分けて配置し、それぞれに異なる個性を持たせました。

3つのエリアそれぞれ
特徴が異なります。

- Aエリア (1~4号棟)
- Bエリア (5~8号棟)
- Cエリア (9~11号棟)



Aエリア ▶

Bエリア ▼

Cエリア ▶

B-area

電気・ガスによるエネルギー供給

【設計・施工・監修】

株式会社横河設計工房・奈良建設株式会社

Bエリア設計・デザイン監修/建築家

横河 健 Ken Yokogawa



日本大学芸術学部美術学科卒業。1976年、設計事務所クレヨン&アソシエイツ設立。1982年に(株)横河設計工房を設立。同社代表取締役の傍ら、日本大学理工学部建築学科教授を務める。

【受賞歴】

毎日コミュニケーションズオフィスアワード2006大賞(ザ・テラス)/グッドデザイン賞(埼玉県環境科学国際センター)/日本建築学会作品選奨(武蔵野市立0123はらっぱ)など



Bエリア街並イメージイラスト

1. 家族と地域をつなぐ「通り土間」

玄関からみんなの庭へとそのまま通り抜けできる「通り土間」は、家族と地域住民を結びつけるコミュニケーションスペースです。全ての住戸に「通り土間」を計画、積極的に外に出たくなるような生活環境を計画しています。

2. 中からも外からも良い眺めをつくる

矩形の平面、方形の屋根をもったシンプルな家型の佇まいは街並に自然に馴染みます。その外形を活かした一室空間に、既存樹木や高台の眺めを望むことのできる開口部をつくることで、中からも外からも「良い眺め」をもった心地よい住環境をつくり出しています。

3. 水まわりと外壁がつくるシンプルな構造

キッチンや浴室など水まわりを中心として回遊できるプランは、つながりのある内部空間でありながら、構造体の一部とすることで、外壁と共にシンプルな構造形式となり、無理なく安全性を確保しています。

「通り土間」
採用!!



イメージイラスト

みんなの庭へ通り抜けができる「通り土間」が魅力のBエリアの住まい。自然と外に出たくなる動線設計によって隣近所とのコミュニケーションも深まります。

Aエリア ▶

Bエリア ▶

Cエリア ▶

【全体計画】

■ マスタープラン企画・監修

ナイス株式会社/岡山建設株式会社/小林克弘 首都大学東京 教授

飯田善彦 横浜国立大学大学院 建築都市スクールY-G S A 教授/株式会社飯田善彦工房

■ 協力

宇野健一 アトリエU都市・地域空間計画室/杉浦栄 S2 Design and Planning

※掲載の概念図やイメージイラストは図面を基に描き起こしたもので実際とは異なります。

植栽は特定の季節の状態を示すものではなく、竣工時にはイメージイラストに描かれているように成長していない部分があります。

また、外観形状の細部(アンテナや設備機器、雨樋等)及び敷地周辺の建物、電柱、標識等は表現上省略しています。

※掲載の間取り図は設計図を基に描き起こしたもので、実際とは異なります。施工等の関係で変更になる場合がございます。詳しくは設計図でご確認ください。

※外構の石・タイル等はおおよその施工範囲を示したものです。

ROOMPLAN

新しい住まいは、エコな暮らしがコンセプト。

住空間の快適さや機能性はそのままに、よりエコに暮らせる住まいのデザインを新開発。
11戸の住まいをA・B・Cの3つのエリアに分けて配置し、それぞれに異なる個性を持たせました。

3つのエリアそれぞれ
特徴が異なります。

- Aエリア (1~4号棟)
- Bエリア (5~8号棟)
- Cエリア (9~11号棟)



Aエリア ▶

Bエリア ▶

Cエリア ▼



Cエリア街並イメージイラスト

C-area

電気・ガスによるエネルギー供給

【設計・施工・監修】
株式会社ユー・アール・ユー総合研究所・株式会社白井組

Cエリア設計・デザイン監修/建築家

小澤 勝美 Katsumi Ozawa



武蔵工業大学建築学科卒業。1980年、
(株)URU建築総合研究所入社。1995年に
(株)ユー・アール・ユー総合研究所代表取
締役に就任。

【受賞歴】

横浜市長賞(優良建築設計者)/日本産業デザイン
振興会会長賞/横浜市長表彰(第1回横浜街並み
景観賞)/建設大臣表彰(横浜元町まちづくり)など

1. 家族がつながる吹抜け

住宅の中心には、空気の循環や通風・採光を考慮して、1階から屋根までつながる吹抜けが設けられています。また、吹抜けは各居室に面しており、吹抜けによって家族がつながる空間となっています。

2. 開かれた窓

1階のサンルームは屋内と屋外をつなぐ中間領域として多彩な利用が可能です。2階には各居室に面した3方のバルコニーを設け、日頃の实用性を考慮しました。また、1、2階とも開口を大きく設けて通風と採光を豊富に採り入れると共に、みんなの庭とのつながりを感じられる設計となっています。

3. シンプルな構造・バリアフリー

四方対象に耐力壁を設け、シンプルで偏心のない安全な構造となっています。また、段差がなく、1階にすべての水まわりをまとめるなど、バリアフリーに考慮した設計となっています。

「サンルーム」
採用!!



イメージイラスト

「サンルーム」を設けたCエリアの住まいは、採光はもちろん風通しにも配慮した設計。リビングには屋根までつながる吹抜けが設けられ、住まいの隅々にまで光と風が行き届きます。

Aエリア ▶

Bエリア ▶

Cエリア ▶

【全体計画】

■ マスタープラン企画・監修

ナイス株式会社/岡山建設株式会社/小林克弘 首都大学東京 教授

飯田善彦 横浜国立大学大学院 建築都市スクールY-G S A教授/株式会社飯田善彦工房

■ 協力

宇野健一 アトリエU都市・地域空間計画室/杉浦栄 S2 Design and Planning

※掲載の概念図やイメージイラストは図面を基に描き起こしたもので実際とは異なります。

植栽は特定の季節の状態を示すものではなく、竣工時にはイメージイラストに描かれているように成長していない部分があります。

また、外観形状の細部（アンテナや設備機器、雨樋等）及び敷地周辺の建物、電柱、標識等は表現上省略しています。

※掲載の間取り図は設計図を基に描き起こしたもので、実際とは異なります。施工等の関係で変更になる場合がございます。詳しくは設計図でご確認ください。

※外構の石・タイル等はおおよその施工範囲を示したものです。